

2020年10月16日

熊本県知事 蒲島郁夫様

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会

共同代表 緒方俊一郎 岐部明廣

美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

代表 中島 康

「住民の皆様の御意見・御提案をお聴きする会」 に関する抗議

「住民の皆様の御意見・御提案をお聴きする会」（以下「お聴きする会」）に関し、熊本県が一部団体のみに参加を呼びかけ、豪雨被災者や一般の地域住民の排除とも受け取れるような、地域住民への事前周知や参加呼びかけを行わない形で開催されることに対し、私たちは大きな衝撃と落胆を受け、現在の開催方法に対して強く抗議します。

10月16日までの開催日程を見ると、「お聴きする会」は住民を対象の一番目にあげておきながら、事前告知なしで平日の昼間に開催されることになっています。「知事が被害にあわれた住民の方からご意見やご提案をお聴きする」との趣旨とは裏腹に、それでは、ほとんどの豪雨被災者や住民は参加できません。広く住民の意見を聞くのならば、開催は事前に十分告知し、住民が参加しやすい平日の夜間や休日に開催すべきです。

地域の様々な団体から意見を聞く上でも、行政との関わりが強い団体の意見を、住民の意見ととらえることには無理が生じます。また、現状のように事前告知がなく団体内で意見の調整がなされないままに各団体の代表を呼んで意見を聞いても、それはあくまで代表の個人的な意見であり、団体の意見とはなっていないはずです。

諸団体の代表からの意見聴取を主とした現在のやり方では、民意とはとても言えないと専門家の指摘もある中、貴職が「お聴きする会」初日の8団体との面談しか済んでいない時点で「民意が変わってきたように思う」などと発言した点についても強く抗議します。

10月15日に人吉市で開催された「お聴きする会」では、冒頭にダムがあった場合の治水効果などを示した「球磨川豪雨検証委員会」の検証内容を熊本県が説明しています。しかし、同委員会が検証した人吉の洪水ピーク流量や川辺川ダムの効果などは、どのような数値や手法をもとに計算されたのか、その過程さえも明らかにされておらず、科学的な検証とはとても言えないことは、10月12日に貴職らに提出しました公開質問状に述べたとおりです。そもそも、国土交通省作成の「球磨川豪雨検証委員会」の資料を使って熊本県

が説明する事自体、「お聴きする会」の趣旨に大きく反します。

熊本県がコーディネートした2001年からの「川辺川ダムを考える住民討論集会」では、参加者に国土交通省側の資料とともに、住民側が作成した資料も配布されました。熊本県が客観・中立・公正・科学的な会の運営をしようとするのならば、当然、住民側からの資料も配布すべきです。

熊本県は、過去のさまざまな住民説明会や「川辺川ダムを考える住民討論集会」においても、常に一般の住民に事前に開催を告知し、開かれた説明と意見交換の機会を設定して来ました。ところが今回、特定の団体などの限られた意見のみを「民意」と見なそうとしています。このままでは、流域にさらなる混乱や対立を生みだし、球磨川の洪水防止対策をさらに遅らせることにもなりかねません。

豪雨被災者や流域住民の声を広く丁寧に聴くために、開かれた「お聴きする会」に改善されることを、強く要請します。

以上

【本抗議文に関する連絡・問合せ先】

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13

TEL:090-2505-3880 (中島)